

令和2年度
備前市外部評価報告書

《令和元年度実績評価分》

令和3年3月

備前市行政評価市民委員会

1 行政評価市民委員会

(1) 委員会設置（運営）の目的

備前市まちづくり基本条例で要請されている外部評価を実施することにより、行政評価（内部評価）の客観性及び透明性を確保するとともに、施策や事業の必要性、成果等について検討や検証を行うことで、市民の視点に立った効率的かつ効果的な行政経営を推進する。

(2) 役割

次に掲げる事項について審査および検討を行い、これに係る意見または提案を市長に報告する。

- ① 市が実施した施策評価および事務事業評価の結果
- ② 市の行政評価システムの改善

(3) 構成委員（7人以内）

令和2年8月1日改選

No.	氏名（ふりがな） 敬称略	区分	職業・所属等	備考
1	草加 己良（くさか みよし）	市民公募	無職	
2	原田 正志（はらだ ただし）	市民公募	スクールバス運転員	
3	船橋 美可（ふなはし みよし）	市民公募	備前市観光協会事務局長	
4	近藤 美典（こんどう よしのり）	市民公募	団体職員	
5	西崎 有紀子（にしざき ゆきこ）	市民公募	放課後児童支援員	
6	佐藤洋一郎（さとう よういちろう）	学識経験	岡山県立大学 教授	

(4) 委員会活動経過

回	日時	具体的活動内容
第1回委員会	令和2年 8月24日 14:00～16:00	○委員顔合わせ・オリエンテーション ○委員長（座長）選出 ○評価対象「施策」の選定（6施策）
第2回委員会	令和2年 10月7日 14:00～16:00	《施策1～2》 ・評価対象施策所管課との質疑応答 ・市民評価シート作成及び採点
第3回委員会	令和2年11月6日 14:00～16:00	《施策3～4》 ・評価対象施策所管課との質疑応答 ・市民評価シート作成及び採点
第4回委員会	令和2年12月9日 14:00～16:00	《施策5～6》 ・評価対象施策所管課との質疑応答 ・市民評価シート作成及び採点

2 外部評価（委員会評価）の評価対象施策

評価対象とする施策については、テーマを絞らず、各委員が「評価したい施策」を選出することとして協議を行い、以下の6施策を選定した。

No.	コード	施策名	所管課
①	3 3	道路環境の整備	建設課
②	1 3	移住・定住の促進	都市住宅課
③	0 7	公民館・図書館機能の充実	社会教育課
④	2 4	地域に密着した医療サービスの提供	病院
⑤	1 1	コミュニティの育成と地域活動の支援	市民協働課
⑥	0 3	小・中学校教育の充実	教育振興課・学校教育課

3 評価採点結果

(1) 評価5項目の点数化

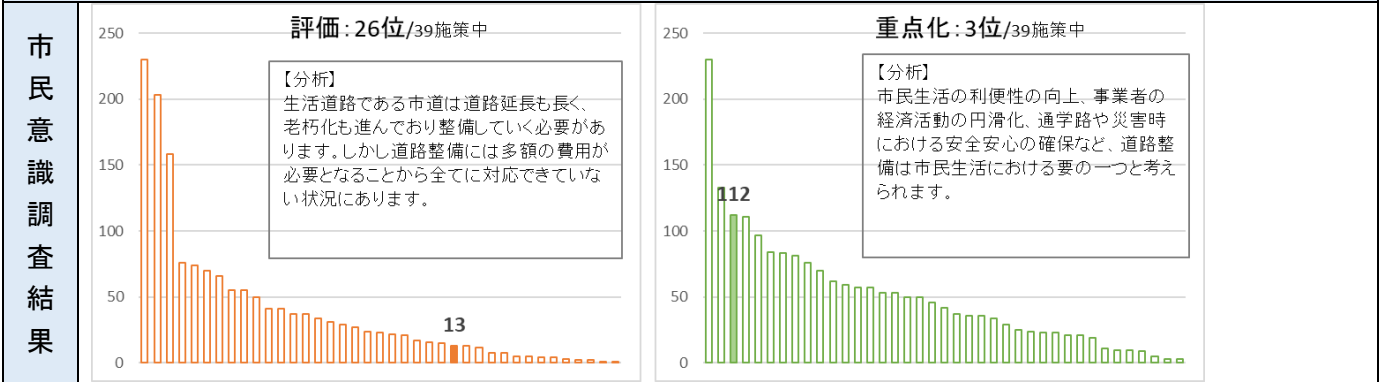
評価の視点を5項目（成果指標の妥当性、事業構成の適当性、施策の有効性、進行年度の取組内容、翌年度の取組目標）とし、それぞれの視点ごとに4点満点で評価した。

【委員6人の評価平均点】

評価実施日	R2. 10. 7		R2. 11. 6		R2. 12. 9	
(4点満点平均)	道路環境の整備	移住・定住の促進	地域に密着した医療サービスの提供	公民館・図書館機能の充実	コミュニティの育成と地域活動の支援	小・中学校教育の充実
成果指標の妥当性	2.5	2.8	2.7	2.5	2.0	2.8
事業構成の適当性	2.5	2.2	2.5	2.5	2.8	3.0
施策の有効性	2.7	2.2	2.7	2.7	3.0	3.0
進行年度の取組内容	2.5	2.3	2.7	2.7	2.4	2.8
翌年度の取組目標	2.5	2.0	2.5	2.7	2.4	2.8
合計(100点満点換算)	63.3	57.5	65.0	65.0	63.0	72.0

(2) 各施策の評価結果とその対応

① 道路環境の整備 ≪評価：63.3点≫



施策に対する成果指標名		単位	過年度実績		評価年度	
			H29	H30	R1	
成果指標	市道整備率	目標	%	21.0	21.0	21.0
		実績	%	21.0	21.0	21.1
		達成率	%	100.0	100.0	100.5
		ベンチマーク		-	-	
参考指標①	ボランティア団体登録数	目標	団体	50	50	50
		実績	団体	44	47	43
		達成率	%	88	94	86
		ベンチマーク		-	-	-
参考指標②	道路維持管理ボランティア団体活動回数	目標	回	200	200	200
		実績	回	173	191	160
		達成率	%	87	96	80
		ベンチマーク		-	-	-
参考指標③	橋梁の点検実施数（全体502橋のうち、年間約100橋点検を行う計画）	目標		6	2	100
		実績		6	2	143
		達成率	%	100.0	100.0	143.0
		ベンチマーク		-	-	-

評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
	3	3	4	2	2	3	3
評価採点		3	2	2	2	3	3
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 整備率は道路整備状況を顕すものであり指標として妥当である。 これからの施設管理においては市民との協働による維持管理活動が重要となってくるため、本指標は妥当である。 						
市民委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 妥当だと思う。 もともと達成不可の数値設定では？ 一段上の目標を立ててほしい。 このシートでは課題の解決策、取組姿勢が感じ取れない。 						

事業構成の 適当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	4	2	1	3	3
	評価採点		3	3	2	1	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理費用が削減されている中において市民との協働によるボランティアは妥当である。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 妥当だと思う。 市民ボランティアのPRをよりやっていくとよいと感じる。 維持管理費用が削減されているが、ライフライン確保の面からも見直す必要があるのでは？ 道路環境の整備、ボランティア活動、架橋の点検、駐輪場の整備など含めて総合的に判断すると、適正ではない。 							
施策の有効性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	3	2	3	2
	評価採点		3	3	3	2	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 財政状況は引き続き厳しいが年次的に整備を進めており、今後も着実に道路整備を進めていく。 ボランティア参加団体数は年々増えてきており、今後更なる団体増を目指す。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 妥当だと思う。 ただ数が増えれば良いものでもないため、内容も見てほしい。 目標成果指標が明確でない状況において、施策の有効性は判断できない。 ボランティア団体は増えていないのでは？ 							
R2年度の 取組内容	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			4	3	2	2	2	3
	評価採点		3	3	2	2	2	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 国道2号は香登・西鶴山地区においてH24年度から国交省により安全対策のための整備が進められ、28年度からは一部工事着手しています。県道においては市内数箇所について、継続的に事業を実施します。又、市道・生活道路も引き続き修繕をおこなうとともに、通学路、企業誘致のための改良整備を進めます。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 妥当だと思う。 現状の課題は認識されているが、取組むことにより、今後どのようにスクラップ&ビルドするのか不明瞭。 言葉を並べているだけで実効性が感じられない。 細かい意見の汲み上げをしてほしい。スピードアップしてほしい。 予算なしでできることはないか？ 							
R3年度の 取組目標	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			4	3	2	2	2	3
	評価採点		3	3	2	2	2	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 国・県事業については事業が円滑に進捗するよう調整に努めるとともに、引き続き事業の促進に向け強力に要望活動を続けていきます。又、市道の改良、修繕については年次的に進め適正な維持管理に努めます。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画の目標とする姿に向かっているように思う。 市民にとって関心、要望の高い事業だと思うので、もっと丁寧に具体的な場所について資料を作成してほしい。 現在の道の整備を十分に取り組んでほしい ほぼ継続だが仕方ないか？ 							

市民委員から見た課題

- ・吉永地区での下水道工事あとのマンホールまわりの舗装が不十分。
- ・市民として市道の荒れようは目に余り、市民は我慢をしていることを知ってほしい。
- ・内容がほとんど数年変わっていないのでは？
- ・シートが読みづらい。
- ・ボランティア登録団体の活動を整理し、良い所、成功例等があれば他団体にニュースとして流してみてもは？

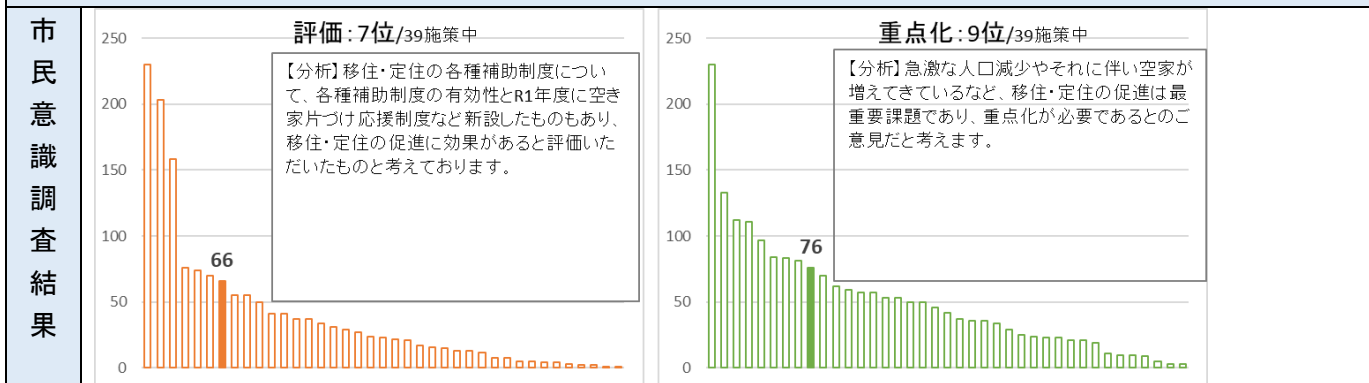
長期的に取り組むべき課題

- ・危険箇所の把握
- ・ボランティアを促進するしかない。
- ・道路の現況分析と役割を市民に分かりやすくしてほしい。

委員会後の担当課対応（施策評価シートも修正しています）

- ・施策成果指標の市道整備率の目標設定（もともと達成不可ではないか？）
→備前市総合計画では目標値を21.0と設定しておりますが、施策評価シートでは異なる目標値となっていたため、総合計画と同じ目標値へと修正しました。
- ・ボランティア登録団体の活動を整理し、良い所、成功例等があれば他団体にニュースとして流してみてもは？
→ボランティア活動状況を広報、HP、Facebookなどに紹介し、参加団体の増加を目指します。
- ・⑧施策の評価 3<施策の有効性>「ボランティア参加団体数は年々増えてきており・・・」と記述があるが、増えていないのでは？
→記載を施策評価シート内で修正しました。

② 移住・定住の促進 ≪評価：57.5点≫



施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度
		H29	H30	R1
		成果指標	目標	実績
下記3事業を利用した転入者数	人	85.0	85.0	85.0
	人	184.0	166.0	155.0
	%	216.5	195.3	182.4
	—			
参考指標① 若年夫婦世帯家賃補助事業利用世帯数	世帯	65	65	65
	世帯	87	48	41
	%	133.8	73.8	63.1
	—			
参考指標② 若年者新築住宅補助事業利用世帯数	戸	40	40	40
	戸	48	57	63
	%	120.0	142.5	157.5
	—			
参考指標③ 空家活用促進補助事業利用世帯数	世帯	25	25	25
	世帯	29	40	36
	%	116.0	160.0	144.0
	—			

成果指標の妥当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
	評価採点	4	4	4	2	2	3	3
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 定住施策としての最終的な目標は、魅力あるまちを作ることになりますが、即効性のある対処法の一つとして、若者世帯に向けた新築住宅や家賃補助が有効であることが数値として実証されているため。 							
市民委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ある程度ターゲットを絞っているため効果が分かりやすいです。 成果指標に定住者分は入っていないのでは？ 空家等除却支援制度の活用の数値がない。 							
事業構成の妥当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
	評価採点	3	3	3	2	2	2	2
	担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 若者世帯に対する住居、子育て施策として有効と判断している。空家活用促進補助事業については空き家の流動化促進の観点からも効果がある。 						

	市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 概ね妥当 一時的な移住には効果あると考えます。 若年層に特化したものが多く、時代のニーズに合っているか微妙。 補助金ありきの事業になっている。 						
施策の有効性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4	3	4	2	3	2	2
	評価採点		2	2	2	3	2	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 各補助事業における申請状況は順調であり、移住・定住施策としては一定の効果があると思われるが、既存の補助内容や新たな制度等については検討を行い、移住・定住の促進につなげる。 						
	市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 費用対効果が低いという分析では？ 時代が大きく変わってきており、目標値の設定が妥当か分からない。 施策の有効性は妥当だが、次年度以降の計画が分からない。 他部門との連携、会議がない。 長期の力強さが感じられない。 						
R2年度の取組内容	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			4	3	2	2	2	2
	評価採点		3	3	2	2	2	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 移住定住に係る補助事業は引き続き取り組むが、中でも若年夫婦世帯家賃補助事業は補助金が支給されて補助期間の3年間が経過する世帯がでてくるため、その後の動向に注視する。また、その他の補助制度でも3年目となるため、財源にも限りがあり、制度の見直しが必要で、効果的な制度としたい。 						
	市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 財源の確保や新しい施策の打ち出しなど次に進んでいるように感じます。 意欲は感じます。 施策の問題点の揭示が反映されていないのでは？ 把握はよくできているが実行にもっと力を入れてほしい。 内容をもう一步踏み込んでほしい。 課題認識はされているが、課題解決のための取組及び成果指標の策定が不明確なため、ここ数年変わっていない。 						
R3年度の取組目標	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			3	3	2	2	2	2
	評価採点		2	2	2	2	2	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 成果を踏まえると継続実施が妥当と考えるが、内容については吟味を行う。 また、空家活用促進補助事業の活用については申請件数が増えれば、空き家対策事業としての効果も期待される。新しい働き方として在宅ワーク、都会からの移住など市でどのような生活スタイルができるのか官民で研究し取り組んで行く。 						
	市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> もっと市民ニーズを貪欲にとらえて良いのでは。 企業誘致も頑張ってもらいたい。 わかっているがすすめられない。方策をみんなで考えましょう。 移住希望者の体験アンケートを充実させ、意見に対しての対応と取組みを強化すべき。 明確で市民に分かりやすい目標値を定めてほしい。 長期のビジョンの強さが無い 						

市民委員から見た課題

- ・理解できました。
- ・わかりやすく真摯に取り組まれていることが分かります。
- ・H29年度の市民委員会報告書の内容が反映されていない。
- ・成果指標内のベンチマークの数字の根拠がわからない。
- ・人口が確実に減っていく中でより備前市の特色、住みやすく魅力ある街としてどうあるべきかのイメージが大切なように感じます。
- ・移住アドバイザーは移住経験者が良いのではと感じます。
- ・パンフレットに備前市の強みの利便性（周囲とのアクセス）を書いてみては？
- ・パンフレットにデメリットの記載もある方が良いのでは？（良い所ばかり書いていると来た時にがっかりする）

長期的に取り組むべき課題

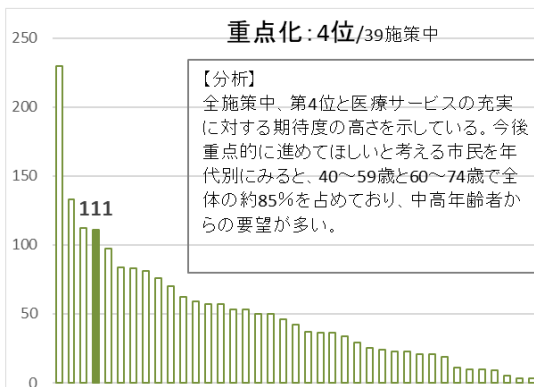
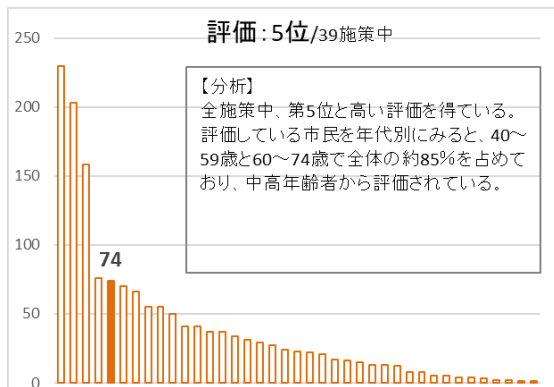
- ・移住者が疎外感を感じないようなコミュニティの場づくり
- ・新しいアイデアの出し合いをお願いしたい
- ・岡山県移住ポータルサイト「おかやま晴れの国ぐらし 移住・定住支援」に各市町村が連携してオンライン相談会の開催や、県HPにバナーの張り付け等しているため、移住定住を希望する人にとっては情報が入りやすい。うまく活用を。
- ・移住よりも定住に力を入れるべき。地元会社の企業誘致、学校・病院の存続を長期で努力してほしい。

委員会後の担当課対応（施策評価シートも修正しております）

- ・施策評価指標のベンチマークの必要性（数字の根拠がわからない）
→前年の実績をベンチマークの欄に記載しているだけのため、削除しました。
- ・⑦連携させる他部署の事業の記述について（企業支援との連携に関する記述がない）
→産業観光課（企業誘致・支援）との連携について、施策評価シートに追記しました。
- ・⑧施策の評価の1.2.3の記述（昨年と記述が変わっていない）
→施策評価シート内の記述を更新しました。
- ・オンライン相談について
→委員会後、オンライン相談会の受付を開始し、既に相談も受けました。また、県主導のオンライン合同相談会も行っています。また、11月1日には備前市の空き家物件を回るオンラインバーチャルツアーも行き、新しい生活様式の中、PRを工夫して行っております。
- ・移住者へのPRについて
→今年度移住者向けのパンフレットを新しく作り変え、PR動画も初めて作成する予定です。また、備前市の移住ページをより見つけやすく、分かりやすくするために、移住のトップページを作成する予定です。
移住を考えている人にとって高い関心のある雑誌（田舎暮らしの本など）での備前市の情報、先輩移住者の情報、空き家情報等の発信や、移住を検討している子育て世代をターゲットにした情報発信など、ターゲット層に移住先の候補として備前市を知っていただく工夫をしております。

③ 地域に密着した医療サービスの提供 <<評価：65.0点>>

市民意識調査結果



施策成果指標

施策に対する成果指標名			単位	過年度実績		評価年度
				H29	H30	R1
成果指標	100床当たりの医師数	目標	人	12.0	12.0	12.0
		実績	人	10.3	10.5	10.6
		達成率	%	85.8	87.5	88.3
		ベンチマーク		7.9	8.0	7.7
参考指標①	経常収支比率	目標	%	100.0	100.0	100.0
		実績	%	100.4	100.2	100.5
		達成率	%	100.4	100.2	100.5
		ベンチマーク		98.1	98.0	97.1
参考指標②	病床利用率 (一般病床のみ)	目標	%	90.0	90.0	90.0
		実績	%	75.8	76.3	72.5
		達成率	%	84.2	84.8	80.6
		ベンチマーク		69.8	70.4	70.0
参考指標③	救急搬送患者の受入割合 (東備消防組合管轄内 医療機関への救急搬送)	目標	%	70.0	70.0	70.0
		実績	%	66.2	65.6	63.5
		達成率	%	94.6	93.7	90.7
		ベンチマーク		70.7	70.8	70.4

成果指標の妥当性

評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
	3	3	3	2	2	2	3
評価採点		3	3	2	3	2	3
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標等については、全国自治体病院の医師数平均値を下回らないよう100床当たりの医師数を成果指標とし、参考指標には経営の健全化を示す指標として経常収支比率と一般病床の病床利用率と公立病院が果たすべき救急搬送患者の受入割合とした。 						
市民委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 目標値の設定は3年間同じ項目で設定しているが、3年並べたらそこに何か変化・新しい対策を見つけることができるのか市民に分かりにくい。 目標値の設定が分かりにくい。 現状から達成可能な設定と思われる。 H31以前はその数値が適正かどうかの記載があったが、R2では抜けており、成果指標の説明だけで終わっているのでは後退しているような気がする。分析した言葉があると分かりやすい。 						

事業構成の 適当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	2	2	2	3
	評価採点		3	2	2	3	2	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 事業構成については、手段についても貢献度においても効率性や採算性だけではなく、医療機能や住民の安心・安全にも考慮しており最適であると考え、今後の人口減少等を視野に入れ、検討を必要とする。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 妥当すぎるため、殻を割って大きく目標を。 前年と比べて新たに何に取り組んだのか全く分からない。カイゼンされて良かった点があれば市民に理解してもらえる。 さつき苑が入っていない 							
施策の有効性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	3	2	2	3
	評価採点		3	3	3	2	2	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支比率については、日生病院と吉永病院が良好なものの、備前病院は目標に達しておらず、一般病床のみの病床利用率については、吉永病院のみが全国平均を上回っている。 						
市民委員 意見	特に意見なし							
R2年度の 取組内容	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			3	2	2	2	3	4
	評価採点		3	2	2	2	3	4
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度発足した「病院事業あり方検討会」では問題点の整理、様々な提案が出ているが、結論には至っていない。引き続き、5年後、15年後の病院事業のあり方を検討する。 また、3病院の連携強化についても進展はみられていない。今後、高齢化、人口減が続く中、そして新たな感染症の発生も視野に入れ、将来にわたり安定した医療、介護サービスの提供ができるよう経営基盤の強化を図り、効率的な経営を維持するため、事務機構の適正化等、将来を見据えた3病院の連携強化を進める。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 病院ごとにそれぞれのニーズに応じて取り組まれている。 現状の課題分析を丁寧にしてほしい。 課題把握はしているものの、取組は限定的とならざるを得ないのが現状かと思われる。 話を聞いて具体的にいろいろと取組をされていることが分かったが、シートではそのことが読み取れないため、反映していただきたい。 							
R3年度の 取組目標	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			3	2	2	2	3	3
	評価採点		3	2	2	2	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 市立3病院並びにさつき苑は常に連携を図り、経営の安定化を図る。また、地域の開業医、介護施設等及び市長部局とも連携しながら、地域に密着した医療、介護、予防サービスの充実を目指す。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 「病院事業あり方検討会」発足で向かう方向は見えているように思う。 来年度これをやっていくというのをもっと前面に出し、具体的に記述していただきたい。 							

市民委員から見た課題

- ・吉永病院の文章がとても分かりやすく具体的です。
- ・吉永病院の事務事業評価シートを見て感心しました。今後の取組、次への方向性について良い悪いは分かりませんが、よく内容をつかんでおられ、読んでみて理解しやすかった。他の病院もこのように報告していただくと分かりやすい。
- ・市民ニーズとあっているか。(子育て世代には利用しづらい)
- ・患者に寄り添うこと(病状説明など納得いく内容に欠けている)
- ・病院事業としてどのような課題があり、どう取り組んできているかということが、市民の人が初めて見ても分かりやすく端的に伝えられるシートにしていきたい。

長期的に取り組むべき課題

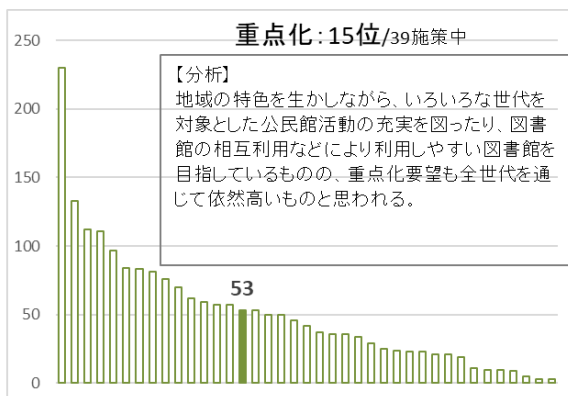
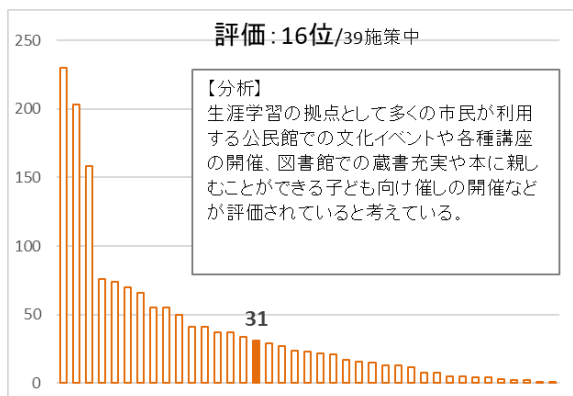
- ・病院事業あり方検討会における適切な議論
- ・岡大の医局に対して、強力なアプローチとコミュニケーションを取って、市民のための病院運営を目指してください。

委員会後の担当課対応

- ・成果指標の経常収支比率の記述(数値が適正なのか分からない)
→病院事業における経常収支比率については100を超えると適正であることから、説明を追記しました。
- ・⑧施策の評価
 - 1<成果指標の妥当性>の記述(成果指標に関する説明が分かりにくい)
→指標に対する説明を追記しました。
 - 2<事業構成の妥当性>の記述(分かりにくい)
→簡潔に分かりやすくするため、記述を一部削除しました。
 - 3<施策の有効性>の記述(分かりにくい)
→各病院間での連携について、診療科目等の違いを特徴として生かす連携を図ることを追記しました。
- R2年度の実施内容及びR3年度の実施目標の記述(具体性が無い)
→病院事業内での人事交流等による人材の適正配置を推進することを追記しました。

④ 公民館・図書館機能の充実 ≪評価：65.0点≫

市民意識調査結果



施策成果指標

施策に対する成果指標名			単位	過年度実績		評価年度
				H29	H30	R1
成果指標	公民館の利用者数	目標	人	77,500	80,000	82,500
		実績	人	80,651	79,611	76,314
		達成率	%	104.1	99.5	92.5
		ベンチマーク				
参考指標①	図書館の利用者数	目標	人	23,000	24,000	25,000
		実績	人	20,163	21,430	21,282
		達成率	%	87.7	89.3	85.1
		ベンチマーク				
参考指標②	1人当たりの貸出数	目標	冊	2.7	2.8	2.9
		実績	冊	2.3	2.8	2.7
		達成率	%	85.2	100.0	93.1
		ベンチマーク				
参考指標③	公民館講座募集定員の充足率	目標	%	80.0	80.0	80.0
		実績	%	68.5	74.9	46.4
		達成率	%	85.6	93.6	58.0
		ベンチマーク				

成果指標の妥当性

評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
	4	2	3	2	3	3	3
評価採点		2	2	2	3	3	3
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 公民館や図書館にご来館いただき、各々の課題解決や情報提供に役立てていただくお手伝いをするためには、たくさんの方にご利用いただくという指標が、今の段階では妥当だと考えています。 						
市民委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 公民館は活力を感じるが図書館は消極的 図書館の利用者数があまりにも寂しい。 他との比較を多方面より努めてほしい。 前年施策成果の実績数値を3年分検証したらそこに何か変化、新しい対策を見つけることができるのか疑問。 						

事業構成の 適当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	2	3	2	2	3	3
	評価採点		2	3	2	2	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 貸館業務だけに対応している傾向が強くなっている公民館の現場を、社会教育の推進を念頭にした多様な講座を企画したり、市の各施策と連携した取組をもっと増やしていく必要があります。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 公民館利用の市民ニーズに対して、とても知恵を感じる。 課題認識はしているものの、具体的対策がない。 							
施策の 有効性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	3	2	3	2
	評価採点		3	3	3	2	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習社会の理念を社会教育によっていかに実現するかという根本に立ち返って、地域の特性を生かしたり、時世を反映した事業や講座等を企画できるか重要となっています。今後も利用率の向上に向けて施設の魅力アップが必要となります。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> もう少し図書館に関しては踏み込んでいただきたい。 目標以上のことを求める。 施策の評価は通り一遍の表現であり、市民に対して説得力がない。ためただの報告書に過ぎない 							
R2年度の 取組内容	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			4	3	2	3	3	3
	評価採点		3	2	2	3	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響もありますが、各公民館が中心となって、さまざまな世代の方が参加できる各種講座の実施に取組みます。図書館の整備については、昨年度策定した図書館整備基本構想により、図書館の現状や課題、基本的な考え方などが示されており、施設整備の具体的な比較検討を行うこととしている。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 「図書館期整備基本構想」で具体的な解決すべき方向性を把握されているのが分かるが、課題を解決するにはお金も時間もかかるので慎重さを感じる。 市民全体のうねりを起こすことが必要と思う。 様々な世代の方が参加できる各種講座の実施とあるが、年代別の分析やPR活動の強化を指標に組み込む検討が必要。 							
R3年度の 取組目標	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
			4	4	2	3	3	2
	評価採点		4	2	2	3	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学習拠点として市民の生きがいや自己実現を促進する公民館事業の展開を目指していきます。子供から大人まで図書館を利用し、事業に参加できるようソフト・ハード両面で魅力ある図書館づくりに取組んでまいります。また、圏域連携による図書館相互利用を推進していきます。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 公民館は特に街に開かれている姿が見えます。 圏域連携による図書館相互利用の促進とあるが、実数が伴っていないのはなぜかの分析がないまま翌年度に取り組んでいる。 							

市民委員から見た課題

- ・課内職員間の連携を強化すべき。
- ・講座後だけでなく、来館者全体にもアンケートを取ってみては？
- ・図書館について、現状よりは広い床面積で整備してください。図書室であってはならない。
- ・東備西播HP等を使ったPRの検討
- ・他の建物をつくる時にタウンミーティングに参加したが、市民の意見が反映されている気がしない。言いつばなしではなく、市民の意見を取り入れてほしい。

長期的に取り組むべき課題

- ・より良い図書館整備（借りに行きたくなる、子供を連れて行きたくなる）
- ・公民館について、地区のコミュニティの中心となる方向で整備していただきたい。
- ・電子化、電子書籍化の検討
- ・図書貸出通帳を導入しては？本を借りるの楽しみが増えるのではと思う。
- ・コロナのようなこともあり、公民館、図書館のあり方の変化を検討
- ・「学び・発見・集う図書館」というスローガンの中、コロナ禍で出来る対策を講じて何が出来るか。（千葉県佐倉市での移動図書館の活用を参考に）

委員会後の担当課対応

- ・⑧施策の評価について
2<事業構成の適当性>の記述（昨年と記述が変わっていない）
→現状に合わせた内容に修正しました。
R2年度の取組目標の記述（具体性が無い）
→実施する講座をより具体的にすべく、地域学、宇宙学を追記しました。
図書館整備ではタウンミーティングを活用することを追記しました。
R3年度の取組目標の記述（分かりづらい）
→図書館利用について圏域連携により相互利用を推進していくという文章をより具体的に修正しました。
- ・今後の取組について

公民館

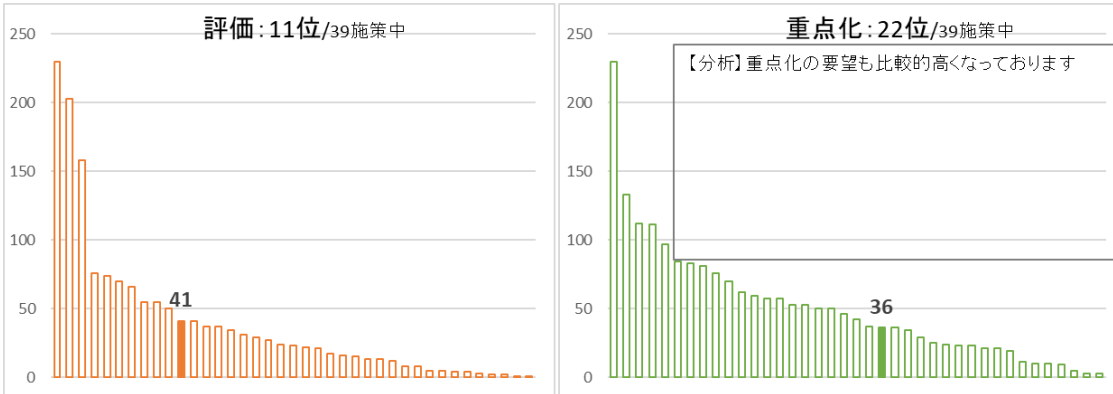
- ①講座・事業等の充実
 - ・他部署との連携の検討
 - ・SNS等による広報活動（事業案内・実績報告等）の充実
- ②公民館等の環境整備
 - ・維持補修の継続、施設内外における環境向上
- ③施設の再編計画
 - ・個別整備計画の策定

図書館

- ①図書館整備
 - ・整備比較検討業務【実施中】
 - ・年明けにタウンミーティング（1～2月 計2回を予定）
- ②図書館サービスの充実
 - ・読書手帳の継続
図書通帳と同様の取組みで、「読書手帳」という名称で大人用と子ども用を作成し希望者に配布中。
 - ・電子図書の導入検討
電子書籍は、公共図書館向け電子書籍のコンテンツが充実していないことや図書館システムとの連携や導入経費などの課題がありますが引き続き検討。
- ③図書館相互利用
 - ・相互利用の周知PR
相互利用は、岡山連携・東備西播ともパンフレットを作成し、新規カード作成時に配布していますが、図書館HPや図書館だより等でも引き続き周知。

⑤ コミュニティの育成と地域活動の支援 ≪評価：63.0点≫

市民意識調査結果



施策成果指標

施策に対する成果指標名			単位	過年度実績		評価年度
				H29	H30	R1
成果指標	地域おこし協力隊員地元定着率	目標	%	60.0	60.0	60.0
		実績	%	100.0	100.0	60.0
		達成率	%	166.7	166.7	100.0
		ベンチマーク				
参考指標①	年間提案数（政策提案事業・協働提案事業）	目標	件	4	4	4
		実績	件	3	2	3
		達成率	%	75.0	50.0	75.0
		ベンチマーク				
参考指標②	ボランティア、NPO活動団体数	目標	団体	30	30	30
		実績	団体	31	31	37
		達成率	%	103.3	103.3	123.3
		ベンチマーク				
参考指標③	この1年で何らかのボランティア活動を行ったことのある市民の割合	目標	%	45	45	45
		実績	%	—	36.9	—
		達成率	%			
		ベンチマーク				

評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
	評価採点	4		2	1	3	2
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊員が、任期終了後も市内に定住し地域活動に携わり続けていただくことは、地域の活性化に大いに役立つこととなります。 						
市民委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な動きがあることの参考になる。 ・まちづくり会議の指標がない。 ・これは指標にならない。他に大切なものがあると思う。 ・ここ数年、成果指標の目標が同じなため、どうなれば良い方向になるのかわからない。 ・数字にするのが難しいと思う。 ・協力隊員の定着率と地域コミュニティの活性化の関連が不明。指標③はOK、指標②は活動数（どのようにカウントするか難しいか？）指標①は寄与不明。 ・団体数は指標にふさわしくない。 						

事業構成の 適当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4		4	2	3	3	3
	評価採点			3	2	3	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 地域の様々な課題を解決するために、まちづくり事業の推進や地域おこし協力隊の活用について支援を行っていきます。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり会議をそこに含めるとよいのではと感じます。 他の大きな目標を。 施策評価シートと事務事業評価シートとの整合性のないシートがある。 地域、行政、協力隊員間の連携と役割が不明確。 現成果指標としては妥当。 縁結び、サイクリングの事業はこの施策の成果をあげるのに適しているのか？ 							
施策の 有効性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3		4	3	3	3	3
	評価採点			3	3	3	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、まちづくり団体の活動を支援し、協働のまちづくりを推進します。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> もう少しあげても良いように感じます。 協力隊員の定着率68.1%というのが市民にとって分かりにくい。 							
R2年度 の取組 内容	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
				4	1	3	3	2
	評価採点			3	1	3	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊は、R2.4月現在7名を任用し、地域協力活動等に引き続き取り組んでいる。本年度中に2名の隊員が任期終了となるが、本市への定住に向けてサポートを行っていく。 地域と行政が、力を合わせて持続可能な地域づくりを進めていくために、各地域の地域担当職員による支援とともに県内で支援実績をもつNPOの助言指導を受けられる事業を導入し、まちづくり会議の立ち上げと地域の課題解決に向けての活動を支援していく。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 妥当だと感じます。 支援のための会議や協力対応ができていない。 地域おこし協力隊に対して、地域と行政が力を合わせて持続可能な地域づくりを進める必要がある。支援するとあるが、言葉だけであるように感じる。 							
R3年度 の取組 目標	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
				4	1	3	3	2
	評価採点			3	1	3	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊2名が、3年の任期を終えることから、その後の起業・定住について支援を行う。また、必要に応じて新規募集を行い、その他の隊員についても、その能力を十分に生かして活動できるように引き続き支援を行う。各地域の自主的な取り組みとしての「まちづくり会議」の立ち上げと運営を地域担当職員と共にサポートしていく。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 助成金等を扱う部署なので、とにかく公平性を保ってほしい。 この目標を達成することにより、このような地域の活性化が実現したとの報告がこの6年間でない。持続可能な地域づくりとは言葉だけになっている。 地域とのコミュニケーション不足。 							

市民委員から見た課題

- ・協力隊は手段であって、目的、目標ではないのでは？（NPO、ボランティアも同様）また、この施策のどの目的のために地域おこし協力隊があるのか。幅広すぎてそこができていないので、常に目的を明確に。
- ・指標は数値で出すのは難しいので、結局満足度が大切になると思う。
- ・合併前の地域独自の制度等が合併後も続いているものがある。それは仕方がないと思うが、合併後15年にもなるのだから、早急に直していただきたい。行政はどの地区にも公平であるべき。
- ・地域の方がどれだけ本気になっているか行政が理解できていない。働きが見えない。
- ・地域協力隊と地元とのつながりが薄いように思う。
- ・サイクリングはこの施策の目的とつながらない。他の施策ですべきなのでは？

長期的に取り組むべき課題

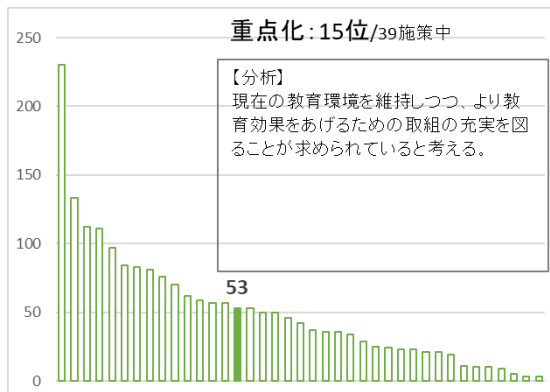
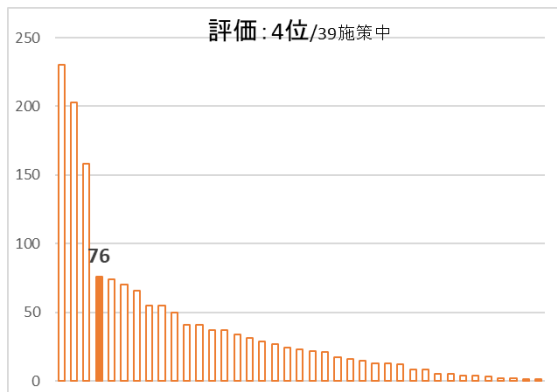
特になし

委員会後の担当課対応

- ・⑧施策の評価 1 成果指標の妥当性の記述（協力隊員の定着率と地域コミュニティの活性化の関連が不明）
→協力隊員の定着率と地域コミュニティの活性化の関連について、追記しました。
- ・進行年度（R2）の取組内容の記述（地域と行政が力を合わせて持続可能な地域づくりを進める、支援するとあるが、言葉だけであるように感じる。）
→具体的な表現に修正しました。
- ・今後の対応
助成金等を扱う部署なので、とにかく公平性を保ってほしい。
→区会等補助金について、継続して見直しをします。
地域とのコミュニケーション不足
→座談会（意見交換会）やまちづくり会議等で引き続き地域とのコミュニケーションを図ります。

⑥ 小・中学校教育の充実 <<評価：72.0点>>

市民意識調査結果



施策成果指標

施策に対する成果指標名			単位	過年度実績		評価年度
				H29	H30	R1
成果指標	学校が休みの日に1時間以上学習する割合 (中1対象県学力・学習状況調査)	目標	%	58.0	58.0	58.0
		実績	%	54.9	49.3	69.6
		達成率	%	94.7	85.0	120.0
		ベンチマーク	—	—	—	
参考指標①	中学校の不登校出現率	目標	%	2.7	2.7	2.7
		実績	%	4.98	3.64	3.41
		達成率	%	54.2	74.2	74.2
		ベンチマーク	—	—	—	
参考指標②	義務教育9年間で児童生徒を育成する意識をもつ教員の割合	目標	%	90.0		
		実績	%	90.0		
		達成率	%	100.0		
		ベンチマーク	—	—	—	
参考指標③		目標	%			
		実績	%			
		達成率	%			
		ベンチマーク				

成果指標の妥当性

評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
	4		4	3	2	3	2
評価採点			3	3	3	3	3
担当課判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査は毎年異なった集団が受験するため、平均正答率の単純比較は誤解を招くおそれがあることから、学習状況を指標とした。学習習慣の定着を図ることを通して、学力向上を目指す指標であり、妥当性はある。 						
市民委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 別の指標もあるとより説得力も増すと感じます。 義務教育9年間で児童生徒を育成する意識を持つ教員の割合が目標90%は理解できない。1割は仕方ないというのなら、再教育なりなんなり手段を講じるべきだと思います。できている、できていないは別として、気持ちだけは持っていてほしい。教育委員会も。 なぜこの成果指標を定めているのか分からない。 生徒がどう感じたのか。小学生、中学生の意見も聞くべきでは？ 例えば、ALTについて、「中1の英語の点数」で評価してみても？ 						

事業構成の 適当性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4		3	3	2	3	3
	評価採点			3	3	3	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた学校生活をおくるためにも、学習環境の整備は必要不可欠である。非常勤講師や図書館司書等の配置、備品・施設の整備、空調設備の整備、トイレの洋式化等は小中学校の教育環境整備に必要な経費であり、適切である。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境整備に必要な経費であることは理解できるが、どのように活用され効果があったかの報告・検証がない。 事業は過去3年間同じ成果指標をあげているが、新しく取り組む姿勢が感じられない。 ALTの幼稚・保育への拡充の成果は？ 							
施策の 有効性	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4		3	3	2	3	3
	評価採点			3	3	3	3	3
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 学力をはじめ教育における成果は、集団の違いにより取り組みの成否を判断することの困難さはある。家庭学習時間は、年度比較では減少はしていても、同一集団の経年比較では改善傾向にある場合もあるが、望ましい学習習慣の形成は大切にしていきたい。不登校出現率は、教育支援センターの機能充実や外部機関との連携の充実を図ることで改善を図りたい。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 現成果指標では妥当。 							
R2年度の 取組内容	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
				3	3	1	3	2
	評価採点			3	3	3	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けて、整備されているICT機器も活用しながら授業改善を図る。タブレットを活用した産学官連携の学力向上実践研究事業や放課後等の補充学習の推進は継続していく。中学校区単位で、授業づくりや生徒指導等を中心に、小中学校9年間の連続性を大切にした取組みの充実を図る。また、各校の校内研究体制を整備し、教職員の資質向上に向けた取組みの充実を図ることで、児童生徒の学力向上につなげていく。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における学習面、心理面、サポートへの考え方が必要のように思います。 各地区の小学校の生徒数があまりにも少なくなっている。今後統合計画等進めなくてはいけないのでは？ 課題解決するために、他部門・関係団体との連携が感じられない。 タブレット利用に関する課題はないのか？（記述に具体性がないのでは？） 							
R3年度の 取組目標	評価	担当課	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
				3	3	2	3	2
	評価採点			3	3	3	3	2
	担当課 判断理由	<ul style="list-style-type: none"> 充実した教育環境を生かしながら、教員の授業改善に向けて重点的に取り組む。また、小中学校9年間の連続性を大切にした取組みを大切にするとともに、地域人材の活用や放課後等補充学習、まなび塾+等、外部環境も有効に活用しながら児童生徒の基礎学力の定着や向上を図るとともに、学校の組織力の向上をめざす。 児童生徒数の減少が進む中、中学校再編整備実施計画を進めていく。 						
市民委員 意見	<ul style="list-style-type: none"> 部活が少なくなり、選択肢が減る中で、外部環境を活かせたらと思います。 地域及び他部門との連携が乏しい。 新型コロナウイルスの影響を受けての課題はないのか？（記述に具体性がないのでは？） 							

市民委員から見た課題

- ・ コロナ禍における、課題解決への取り組みですが、今年度当初、1年生の学習はかなり困難を極め、タブレットも無く、何を学ぶにも親が付きっきりでした。今後同様なことが起こった場合に、何か良い取り組みを作っておく必要があると思います。更に2年生以上は、タブレットはありましたが、オンラインがあればより良かったと感じました。
- ・ 「将来を担う人材が育つまち」＝学力が高いというわけではなく、郷土への想いを育む教育をもっと取り入れても良いのではと感じました。
- ・ 地域人材の方にお世話になりました。地域人材の方々の支援報告又は結果などが分かるものを作っては？
- ・ 各課と連絡を密に進めてほしい。
- ・ 英語については、5歳までに耳を馴染ませることが大切なため、幼稚・保育に拡充していることは重要。
- ・ タブレットを使えばもう少し効率よくできると思う。教育委員会が学校側に提案すべき。
- ・ タブレット活用について、先生によってやる、やらないで差が出るのは義務教育ではよくない。公平でなければならぬと思う。
- ・ 生まれ育った地域、地元の特色を学ぶことも重要だが、それはどこでもやっているため、こんな特色があったら備前市に住もうとつなげられればそれは備前市ならではの特色になる。

長期的に取り組むべき課題

- ・ 防災の拠点としての取組

委員会後の担当課対応

- ・ 進行年度（R2）の取組内容、翌年度（R3年度）の取組目標の記述（具体性が無い）
→GIGAスクール構想の実現に向けた内容を追記しました。

市民委員による意見まとめ

委員の意見についてまとめ、次年度以降の行政評価等にあたり、留意する点とする。

【成果指標の妥当性】

- ・ 成果指標が分かりにくい。また、実績値に対する説明が不足している。
- ・ そもそもの成果指標の設定が施策の目指すべき姿につながるものなのに疑問を持つ意見が多く、次期備前市総合計画を策定する段階で、大きく見直す必要がある。

【事業構成の妥当性】

- ・ 前年と比べて新たに何に取り組んだのかについて、説明を聞くと納得するが、シートの内容では分かりにくい。カイゼンされて良かった点が分かれば市民に理解してもらえる。
- ・ 課題認識はしていても、具体的な対策がない。
- ・ 施策の成果をあげるのにふさわしくない事業がある。
- ・ 評価年度において、何を新しく取り組んだのかが分かりにくい。
- ・ 目的と手段が不明瞭。どういった目的のためにその事業（手段）を実施しているのかを明確にする必要がある。

【施策の有効性】

- ・ 目標成果指標が明確でない状況において、施策の有効性は判断できない。
- ・ 施策の評価は通り一遍の表現であり、市民に対して説得力がない。ただの報告書になっている。

【行政評価システムの改善点】

- ・ 市民が見たときに分かりづらい。毎年シートに書かれている内容があまり変わっていない。
- ・ 担当課から説明を受ければ理解できるが、シートの内容だけでは取組内容が分かりづらい。
- ・ 何の目的のためにどんな取組みをしたのか、取組んだ結果どうなったのか、今後どうするのかの一連の流れが見やすいシートにしてほしい。
- ・ 成果指標について、行政側のアクション（アウトプット）の計測と市民の意識や行動変容（アウトカム）の計測とを分けて取るべき。（本来、成果指標としてはアウトカムの方が重要）

次期総合計画策定に伴う主な見直しポイント

行政評価は、総合計画の進捗管理という役割を担っているが、来年度次期総合計画が策定される。行政評価及び行政評価市民委員会ですでに出された課題をしっかりとフィードバックし、見直しを行いたい。

●**成果の基準をそろえる**

- ・ 成果を図ることが難しかったり、適当でない事業は、成果は求めず、事業実績の説明を主眼とする。（例えば、住民基本台帳や税や保健など、法律に基づき全国一律で実施している事務など）
- ・ 補助金やイベントなど市の裁量で行っている事業は、成果の測定を行う。（事業を拡充・継続・縮小・廃止などの判断する指標が必要なため）
- ・ 市民が利用する施設については、需要や維持管理費だけではなく、ストックマネジメントとして、将来的な費用なども併せて示し、施設の統廃合や民間委託なども検討する。

●**評価の基準を優先度付けとする（全体の中での各事業の優先度をつけることを主眼とする）**

- ・ 事務事業評価は、各事務事業の効果検証を行う。
- ・ 施策評価は、各施策内事務事業の効果検証を踏まえた優先順位付けを主眼として評価を実施する。
- ・ 施策評価の際に、“課題”を列挙し、取り組むべきことを再度整理する。
- ・ 施策評価でつけた優先度を、経営層が最終判断する。